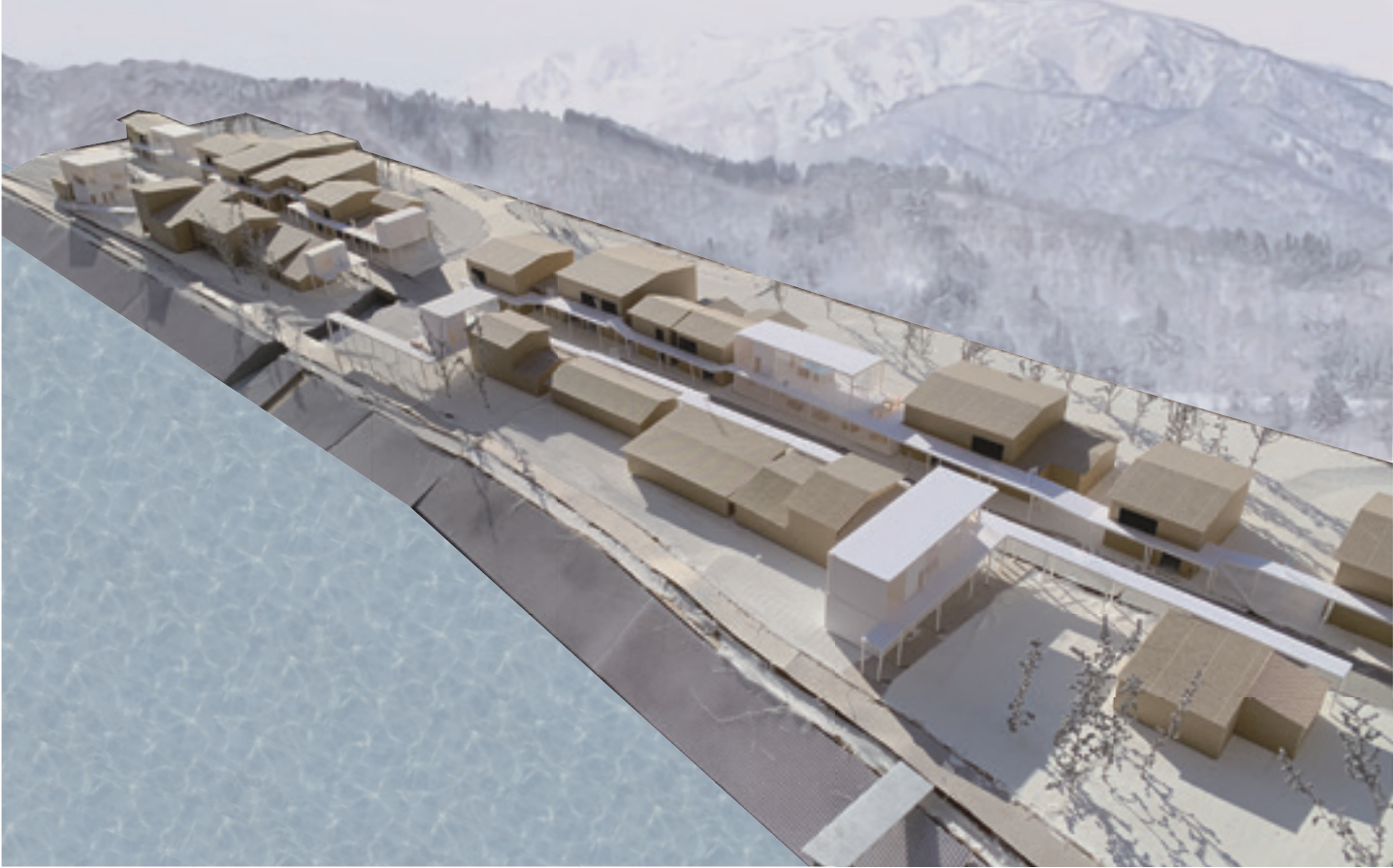


集落を雪囲う

関わり続けられる集落

東野有希



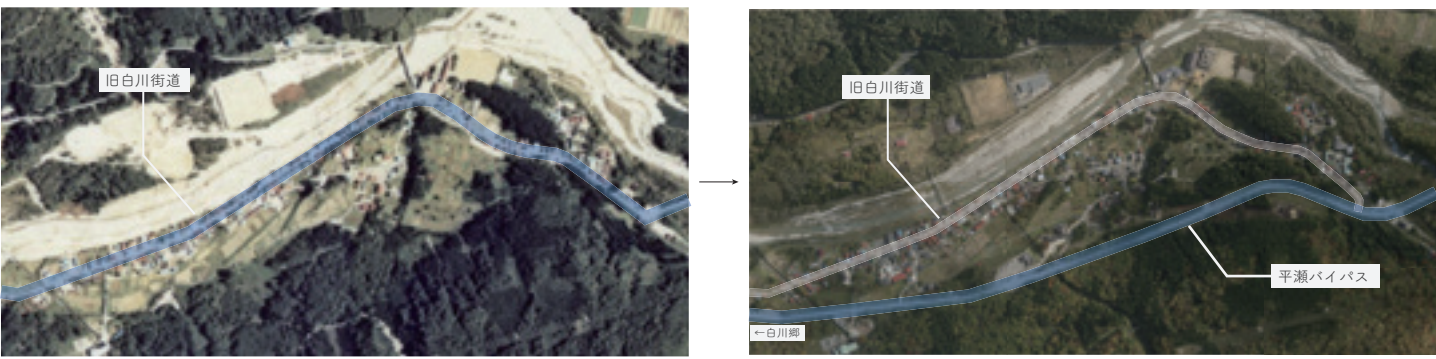
0. はじまり 関わり続けられる集落について考えたい。私の祖父母が暮らしていた集落はいわゆる限界集落である。ある時、祖父を亡くした祖母はこの地で1人取り残された。祖母はこの集落に最後まで住み続けたいと願っていた。しかし、雪が厳しく便の悪いこの地において1人で生き抜くことは困難であると都会の老人ホームに引き取ることになってしまった。あの時、この集落にどんな建築があれば祖母はこの集落で暮らし続けられたのか。この集落にずっと住んでいる人をはじめ、様々な立場の人がこの集落と関わり続けられるような未来を考える。

1. 敷地 岐阜県白川村平瀬集落

敷地は祖父母が暮らしていた“岐阜県白川村平瀬”という集落である。豪雪地帯であるため、かつて冬季には雪によって周りの集落とは断絶されたため秘境の地と呼ばれていた。



川 遊歩道 住宅 旧白川街道 住宅 平瀬バイパス

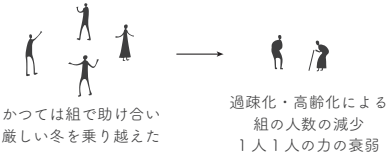


かつてここには庄川に沿うように旧白川街道が通っており、この街道沿いに建物が建ち並び集落が形成された。 白川郷が世界遺産に登録され、岐阜・名古屋方面から白川郷に向かう観光客による通過交通が増加。平瀬バイパスが完成し、旧白川街道は廃れていく。

2. 歴史 平瀬集落の文化

組の結びつき

この地では組（隣組）という考えが根強く残っており、近所の人と相互扶助の関係が築かれている。かつてはこの組同士で助け合うことで、豪雪地帯であるこの集落でも生き抜いてこられた。しかし、高齢化・過疎化が進むにつれて組の力は衰弱し、組の力では解決できないことが増えており、この地で暮らすことが難しくなっている。



雪囲い

雪囲いとは豪雪地帯で暮らすための昔からの知恵であり、屋根から地面に木材をたて、それに沿ってわらや板で家を囲うものである。積雪の重みで家が破壊されるのを防ぎ、また玄関などの動線を確保することができるため積極的に行われてきた。重労働であるため組の助け合いによって行われ、それが旧白川街道沿いに立ち並ぶことで集落独特の風景をつくりだし、雪に対峙する人間の強さを象徴していた。

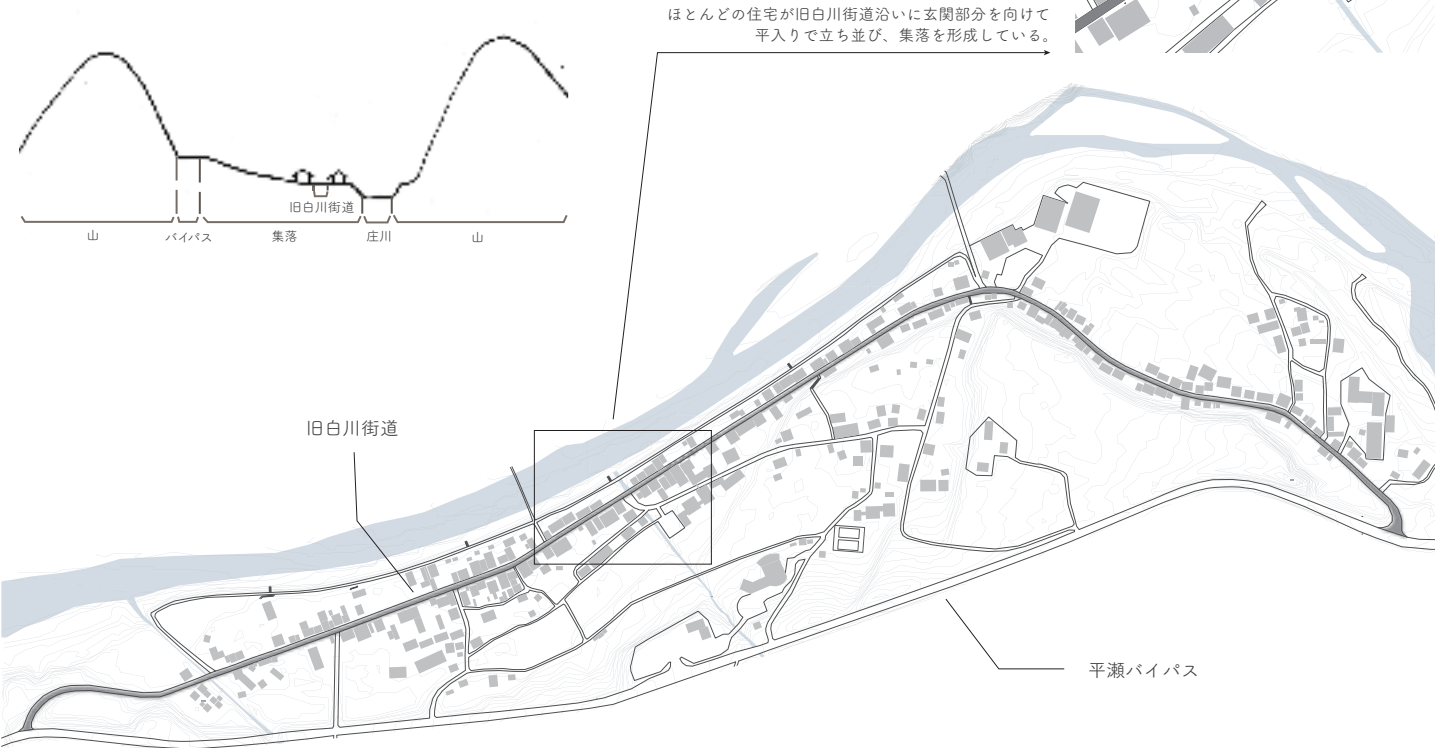


かつての旧白川街道沿いの雪囲い



軽く扱いやすいポリカーボネイト板で常設化される、形骸化した雪囲い

この集落は山ひだが険しい地域となっており、その急斜面地の間を縫うように庄川が流れている。庄川に沿うように旧白川街道が整備され、旧白川街道沿いのわずかな平坦地にこの集落が形成された。かつて旧白川街道は物資や人が頻繁に行き交う道であったが、白川郷が世界遺産に登録されたことによる観光客の通過交通の増加に伴い平瀬バイパスがつくられ、旧白川街道はスピードの遅い道となった。現在は高齢化・過疎化が進み、旧白川街道沿いの空き家、空き地が年々増加している。



3. 雪囲いの建築

雪囲いを再解釈すると ...

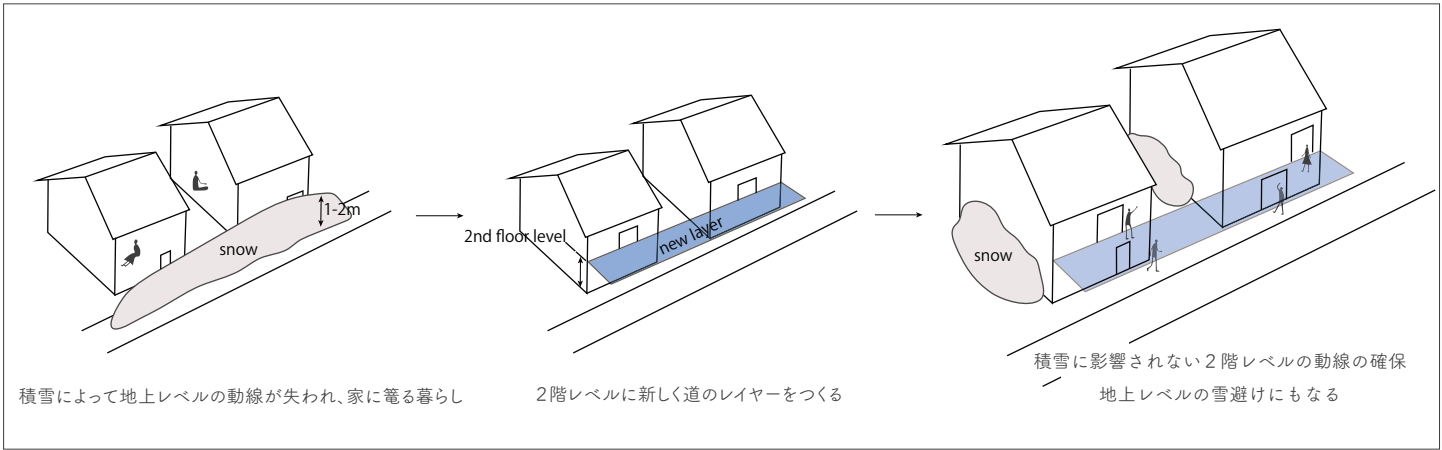
雪囲いとは雪に耐えるという本来の目的だけでなく、組の相互

かつての雪囲いが担っていた雪へ対峙する機能を持ち、組の相互扶助のつながりを強め

雪に対峙する 道のレイヤーを新たにつくる

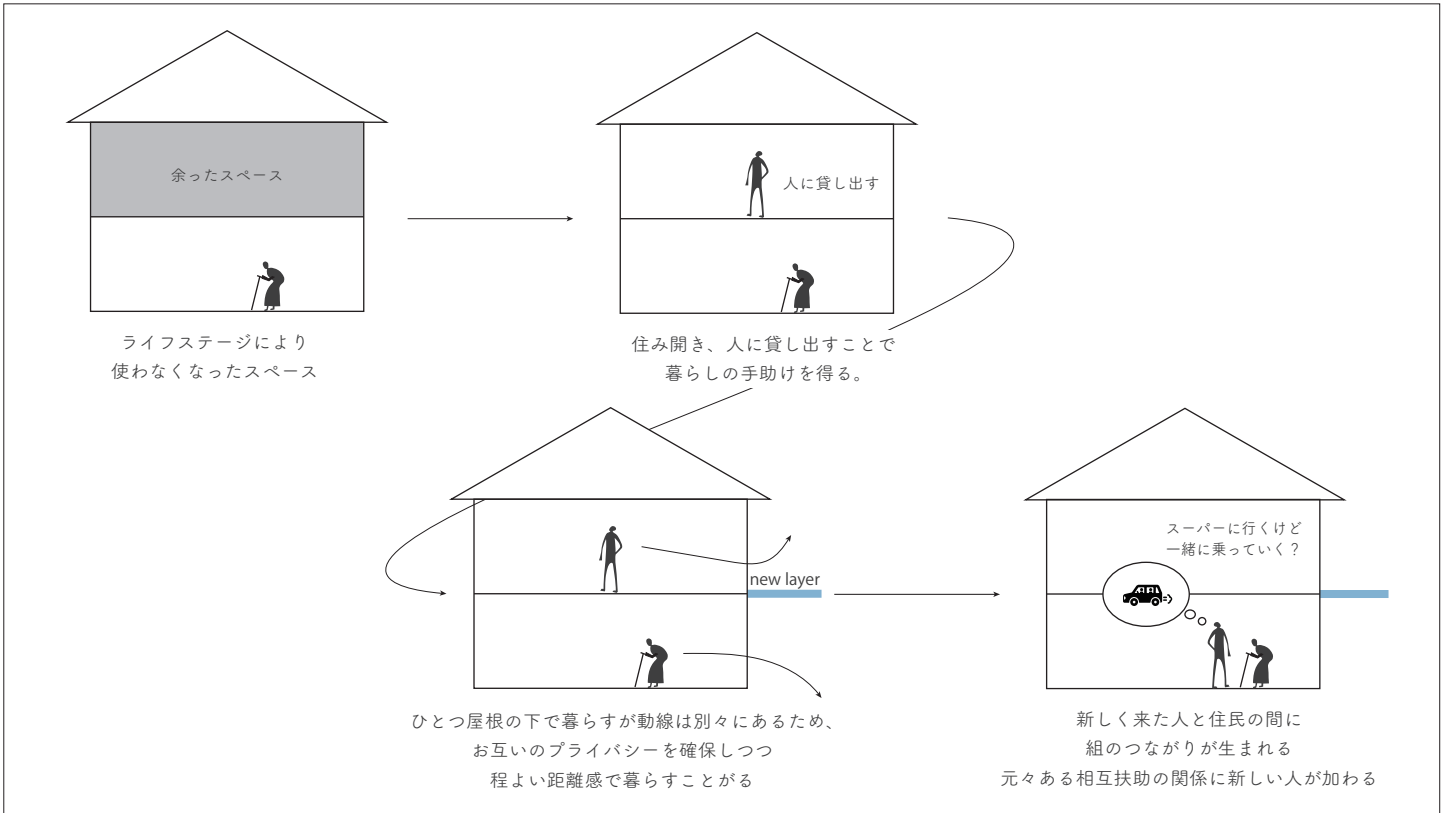
この地域では雪が降ると1階部分が埋まってしまい普段の生活に必要な地上レベルの動線が機能しなくなる。そこで積雪に左右されない、住宅の2階レベルに新しい道のレイヤーを挿入する。これによって2階のレベルにも家と家とを繋ぐ導線ができ、冬にも組のつながりを保つことが可能となる。またこの道ができることで地上のレベルの雪避けともなる。

“新しい道のレイヤー”とは地上レベルの雪よけにもなり、それぞれの家を繋ぐ二階レベルの通路ともなる。



住み開き 新しい道のレイヤーにより可能となる、新しい暮らし方

2階のレベルに新しく道のレイヤーを作ることで、家の2階にも玄関ができ、1階と2階で別々の動線を確保できる。家を住み開いていくときに、別々の動線が確保できていることでプライバシーを確保でき、程よい距離感で一緒に暮らしていくことが可能となる。



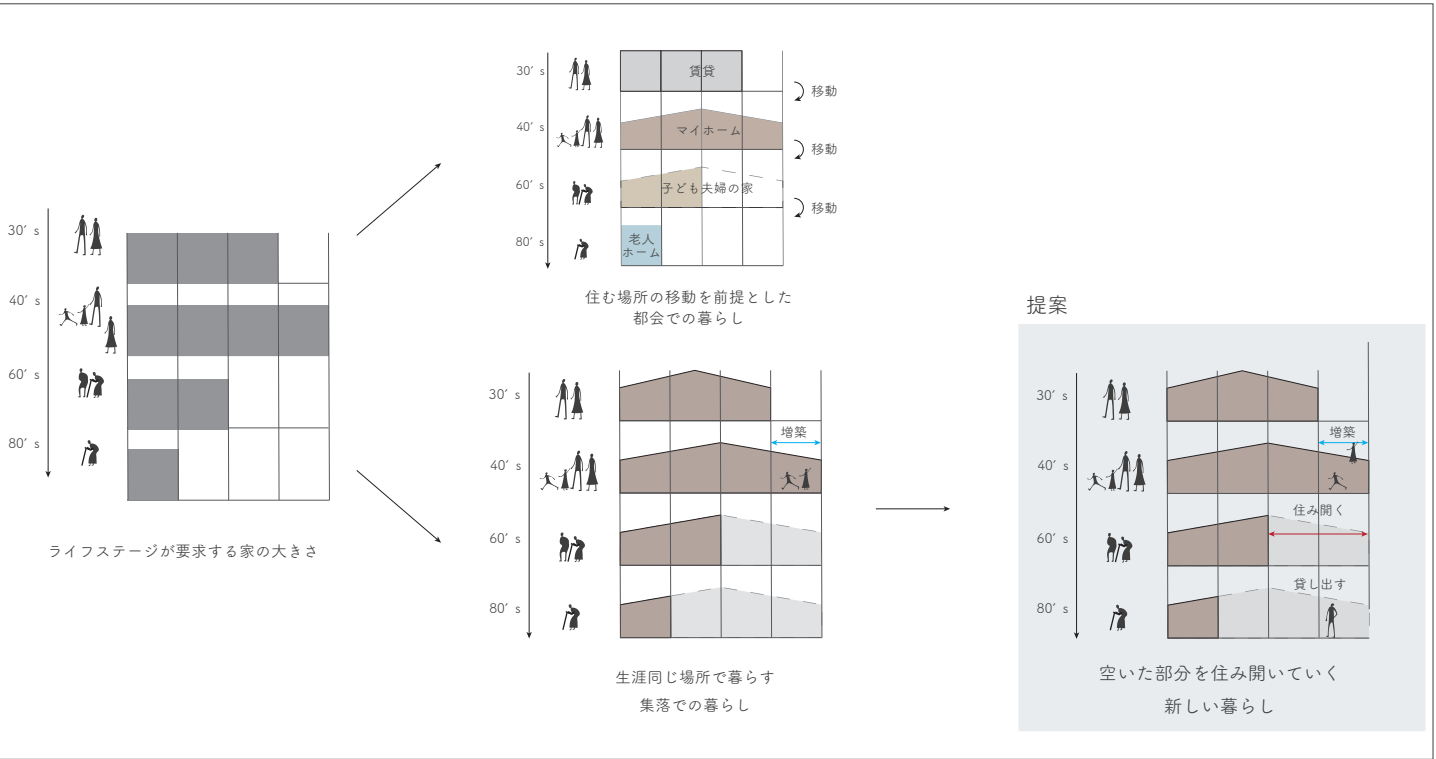
扶助のつながりや集落のシーケンスを作り出していたものであった。

白川街道沿いのシーケンスをつくり出していくような新しい“雪囲いの建築”をつくる

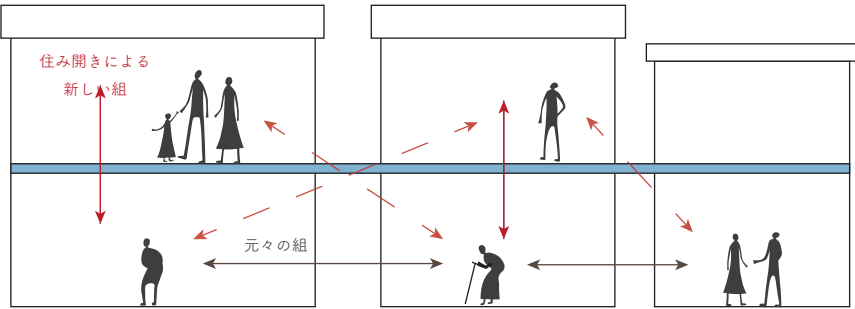
組のつながりを守る 住み開きによる新しい組のつながり

ライフステージにあった集落での暮らし
ライフステージによって家の必要な面積は異なってくる。
都会では移動を前提とし、引越しを繰り返すことで必要な大きさを満たしていく。

しかし、このような集落では基本的に生涯同じ家で暮らしていくため、ライフステージが要求する家の大きさに対応して住む場所を変えていくというような住み方は難しい。そこで必要なくなった家の部分を地域や人に開いていく、住み開き という可変的な暮らしを考える。一人暮らしの老人は住み開きをし、家の使わなくなった場所を貸すことで暮らしの手助けを得る。

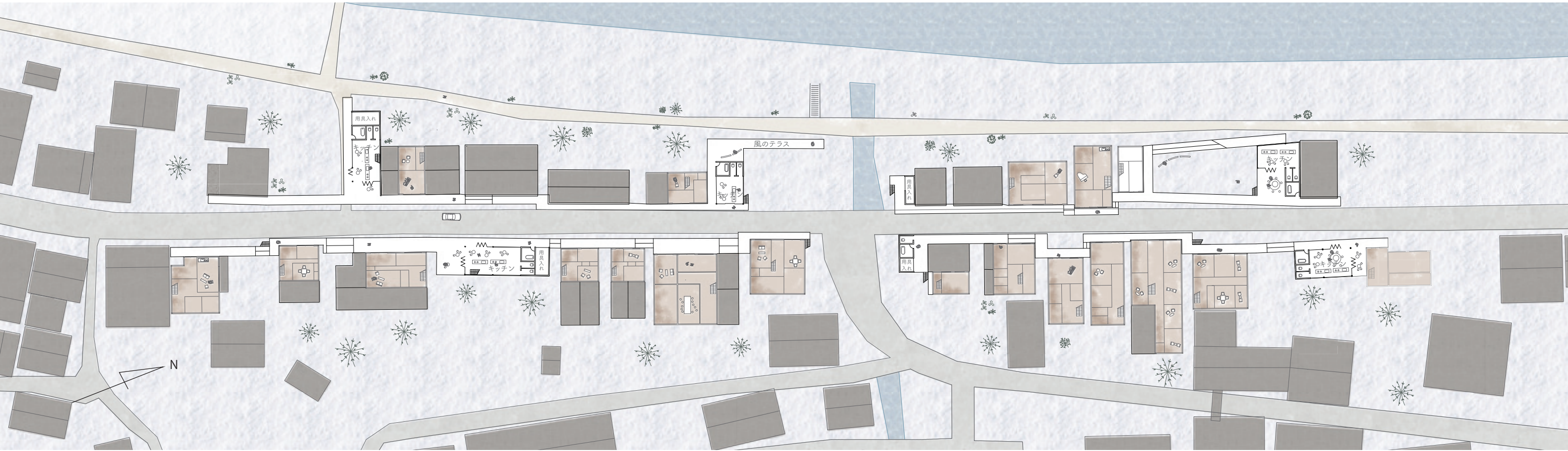


ひとつの家に暮らす元々の住民と新しく住む人の間に新しい組のつながりが生まれる。
元々ある組の關係に新しい人が加わることで、組の新陳代謝につながる。
暮らしは交わりつながっていく。

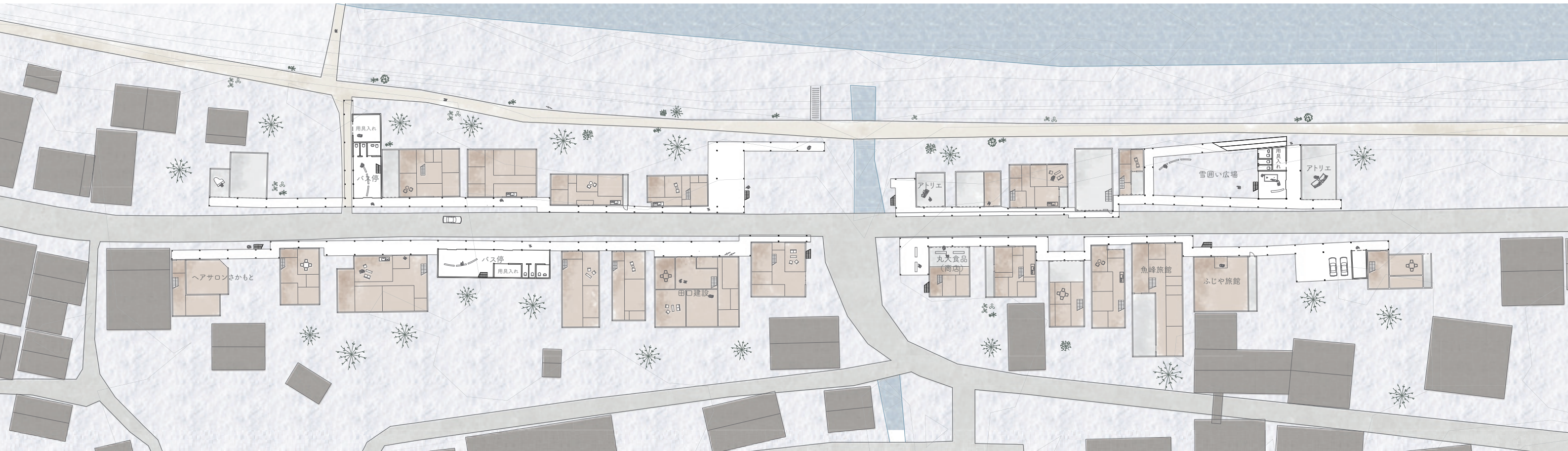


元々の横の組のつながりに、新たに縦の新しい組のつながりができ、交わっていく。

2nd floor plan S=1:800



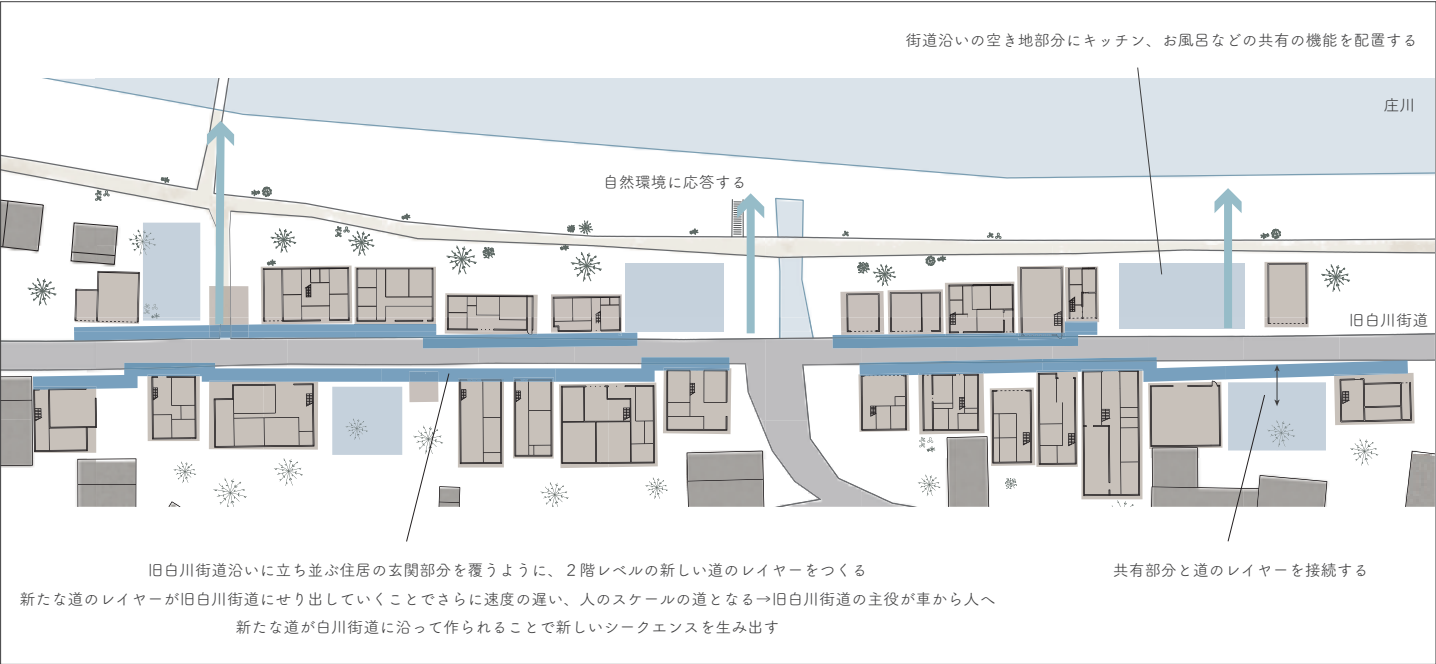
1st floor plan S=1:800



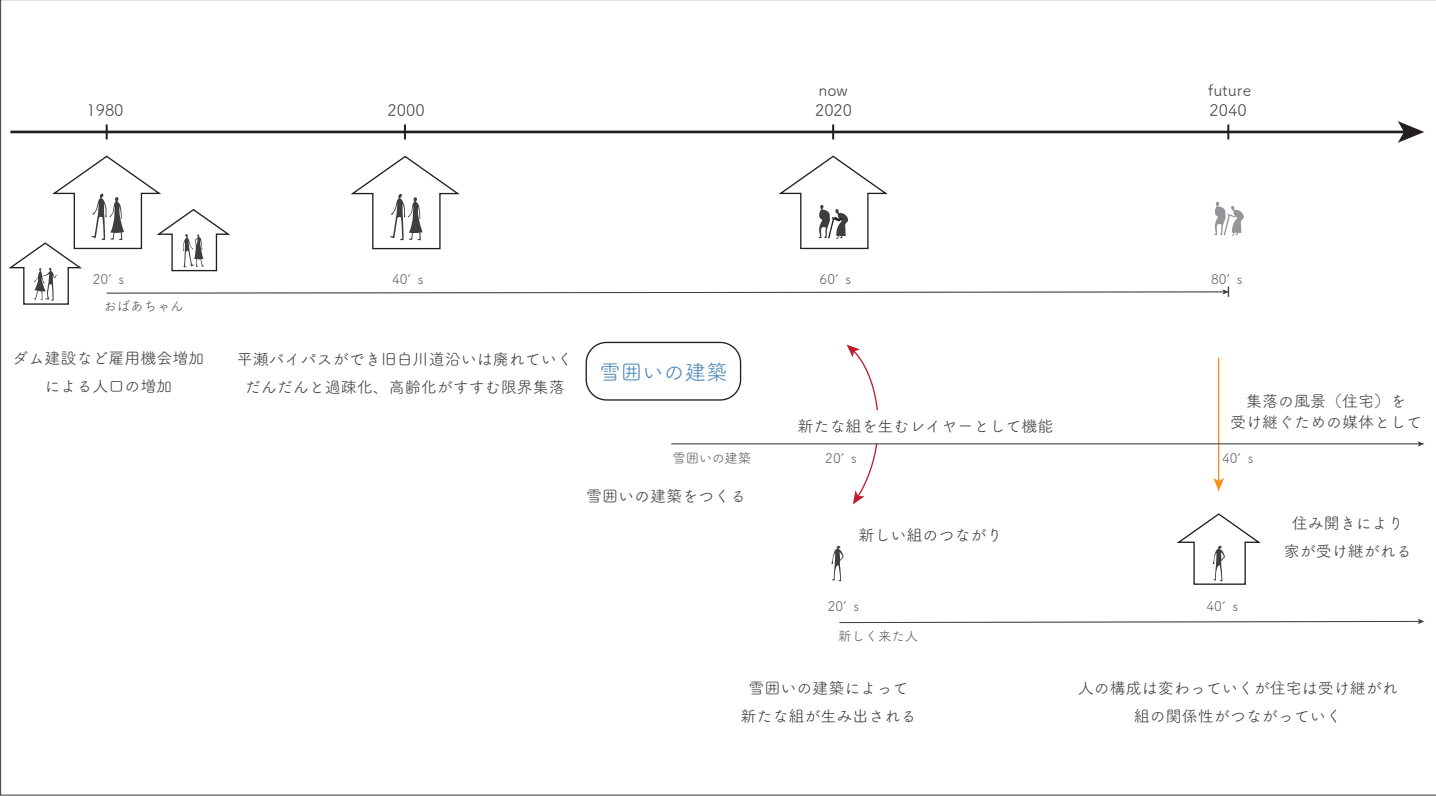
4. 未来の集落

新しい集落の街道沿いの風景となる

新しい道のレイヤーを住居に沿ってつくっていくことで旧白川街道沿いの新しいシーケンスを生み出し、それが集落の風景として残っていく。



20年後の集落を考える



20年後、ここに住んでいたおじいちゃん、おばあちゃんが亡くなることもあるだろう。

今までのようにおばあちゃんの家は空き家になり取り壊されるのを待つのではなく

雪囲いの建築があることによって住み開かれ、次の世代の人に受け継がれ、集落の価値として残っていく。



今までの課題と卒業設計っていうのは全く違うものなんだっていうのを痛感する1年間でした。

自分は自分の経験から、敷地から入って考えていったけど、今までの課題とは違って敷地が広大で制限が全く無かったから、

逆にどう形を作ればいいのか分からなくて、最後の最後まで形にならなかった。

けど1年間この敷地で考えたこと続けたことはいい経験になったと思う。

もっと卒制らしくみんなで学棟でワイワイ浜弁買いに行ったり、徹夜したりしながらやれたらよかったなーって思ってます。

けど、コロナ禍での卒制だったと思えないくらいみんなの作品はパワーがあって凄くなっていました。

Special Thanks

みたかくん、たかひろくん、かず、はなちゃん、かれんちゃん、ナカムー、ゆいちゃん、なほ、かな、しんさん、かんのさん

みんなが困ったときは助けに行きます！

Comments from Classmates

馴れ親しんだ街で最後まで生きるために建築が出来ることは何だろうか、というこの卒業設計の始まりにある切実な思いに共感する。この思いを建築にする難しさに最後まで向き合う姿に勇気をもらいました。ありがとう！

亀井美里

この案は、集落の人口減少という問題だけでなく、集落に通る旧白川街道がバイパスに取って代わられるという地方の都市計画的な歴史なども含めて、この地域に存在する雪囲いを新しい建築としてポジティブに変えていき、この建築によって集落の多くのことを変えていくんだというゆきちゃんの切実な思いを感じました！

藤澤太朗

田舎の地縁の力を信じて提案しているゆきちゃんの姿に今年度の初めから共感していて、雪の地域だからこそその建物の形とか追求できる余地はたくさんあったかもしれないけど、話がスッと入ってきました！こんなコロナの状況だけど、老人ホームにいるおばあちゃんにこの提案を説明して喜んでもらえるといいね。おつかれさま！

正林泰誠

身近な話からテーマを掲げ、卒業設計の形にまとめ上げるのは、少しでも実感が湧かないことに関してはリアリティがなく、難しかっただろうと思います。そんな中、どうしたら祖父母の集落が存続しうるかを仕組みから組み立てられたのは素晴らしいと思います。ただ、出来上がった建築によってできる環境がどう楽しく豊かなのが伝わりづらく、もったいなかった。自覚はしていないかもしれませんが、ゆきはいつも魅力的な空間を作っているから、もし今後ものづくりに携わる機会があれば、またその魅力的な空間を見せてほしいです！

馬場一輝

高齢者が多くなってしまった集落の現状に、雪囲いを新たに捉え直してそれによって若い世代に受け継がれていくという、その土地の風土と時間変化によってストーリーができてるのが素敵だなと思いました。毎課題なんだかんだいい空間を作ってきた印象だったので、雪囲いという特殊なものを扱いながらも建築空間に昇華しきれなかったのが惜しい気もします。多分派手ではない、静かだけど面白い風景（八木橋の勝手なイメージ）が有希ちゃんなら作れたんだろうなと思います！

八木橋京

ゆきちゃんのテーマは日本中の切実な問題だと思います。住みたい場所があるのに、住み続けることができない…っていうのは悲しいよね。おばあちゃんへの愛を感じるあたたかいテーマなのが素敵だなと思っていました。住宅だけでなく林業を巻き込もうとしたり、雪に着目したり、切実な問題にたくさん向き合ったと思うんだけど、なにかもっとポジティブな力を巻き込んでみる可能性をみつけないなと思います。困っていることがたくさんあって行き詰る状況こそ、楽しいとか面白いとか美しいとかポジティブな力は大切な力になると信じたいです。

寺西遥夏